いわき市教育委員会

研修だより 礎（いしずえ）

研修だより　第18号
平成30年3月7日
発行所
いわき市教育委員会
発行責任者
教育長　吉田　尚

「水飲み場を求めて」

いわき市総合教育センター
所長　高崎康行

「高崎先生、今年１年本当に頑張ったね。子どもたちの活躍も素晴らしい。たいしたものだ。」

教師１年目を終えようとしていたある日、校長先生にいただいた言葉に喜び一杯でした。ところが、校長先生のお話は続き

「学力テストは、隣の学級（学年主任のクラス）に負けたけど、これはしかたがない。」

と最後に加わりました。私は、涙がこみ上げてきて、その後のことは覚えていません。ただ、悔しさと情けない気持ちで一杯でした。

「この子たちのために力のある先生になる。」

と強く心に誓ったことを忘れません。

総合教育センターでは、今年度、研修調査室、教育支援室の２室体制で、今までより、強力に学校や先生方をバックアップしたいと考え、改善を図ってきました。「扉の向こうへ」を合い言葉に、研修が自己満足にとどまらず、現場で生きて役立つ研修となることを目指してきました。指導力をつけたいと願っている先生方の応援を精一杯したいという想いも込めています。そのために「研修センター」、「OJT支援センター」、「カリキュラムセンター」としての機能充実に力を入れてきました。今回の「礎」には、調査研究委員会が、２年間に渡り取り組んだ、成果の概要も掲載しております。優れた授業の動画を集め、アーカイブの充実を図り、優れたポイントをわかりやすく解説したＰＤＦ資料等もホームページ（ＨＰ）に掲載します。校内研修や自己啓発研修等に活用していただければ幸いです。かなりの完成度の高さであると自負しています。是非、総合教育センターのＨＰとお友達になってください。

宝島社から出版されている、和田秀樹さん監修の「アドラー１００の言葉」の中で「馬を水飲み場につれていくことはできる。しかし、馬に水を飲ませることはできない」という言葉が紹介されています。「職場でも学校でも、人に教える際に大切なのは、相手が自分で課題に取り組めるようにすることです。～中略～ 親も上司も教師も、ある程度までフォローすることはできます。でも、そこから先、水を飲むかは本人次第なのです。」と解説しています。研修も同様で、研修者が飲みたくなる水のような研修でなければなりません。

１年目が終わろうとしていたあの時、私は、

「みんなが大好き。来年も担任だったら嬉しいけど、みんなの学力を付けてあげられないから、申し訳なくて、校長先生にお願いできない。」

と涙ながらに話していました。子どもたちから

「勉強頑張るから、来年も担任になって。」

と何人かの声があがりました。その時、私の中で「この子たちのために勉強しなければ」という気持ちがはじけました。今現在、「水を飲んで力がついたのか」という答えは出ていません。まだまだ、自分の意志で、水飲み場を探して見つけ出し、水を飲み続けなければならないと思っています。

総合教育センターが、いわきの先生方にとって、水飲み場の一つになれることを願っています。

平成28・29年度いわき市総合教育センター調査研究委員会

調　査　研　究　報　告

1　研究の概要

調査研究委員会では、平成 28・29 年度の２年間をかけて、日々の授業改善や生徒指導、特別支援教育の充実をめざし、市内の優れた授業や実践の取材などをもとに指導のあり方を研究し、日常の指導に役立つ資料の作成に取り組んできました。今回、その成果を「『教師力 up』の素」としてまとめ、総合教育センターホームページに掲載いたします。また、その中で取り上げた各授業（１単位時間）の映像を DVD 化し、総合教育センター図書資料室に所蔵します。市内の先生方が、授業や校内研修等で本資料を有効活用し、指導力の向上に役立てていただければ幸いです。

2　研究のねらいと視点

現・新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業の展開

○　知識・技能の習得と活用（思考・判断・表現力の育成）を図る学習指導のあり方

○　教科の本質を踏まえた授業

○　「ふくしまの『授業スタンダード』」（福島県教育委員会）の視点を踏まえた授業　　等

3　資料の活用

（１）　優れた授業実践の指導のポイントを「１～２分の動画」及び「授業解説資料」にまとめ、総合教育センターホームページに掲載して活用できるようにする。

（２）　優れた授業（１単位時間分）を DVD 化し、総合教育センター図書室に所蔵し、活用できるようにする。

国　語　部　会

～身に付けさせたい力を明確にした授業づくり～

1　ねらい

国語科では、「身に付けさせたい力とは何か」、授業のねらいを明確にすることが授業づくりの１番のポイントであると捉えました。そこで今回は、児童生徒に「何を学習するのか」「何ができればよいのか」といった学習の見通しをもたせながら、発達の段階に応じて、本時のねらいに沿った具体的な方向付けや言語モデルの提示の工夫を行っている授業の様子を中心にとりあげています。

2　内容

国語科では小学校５つ、中学校３つの国語の授業と、小学校の書写の授業の様子を活用させていただきました。授業のポイントは以下のとおりです。

○　既習事項の振り返りと本時との関連付け

○　具体物の提示や実演による意欲の喚起

○　学習の方向付けと学習の見通しの明確化

○　個々の思考・追求と他者との共有

○　適切な見取りによる個の学びの深化

○　学習のまとめと新たな学びへの導き

3　活用と効果

○　具体的な見通しをもたせることで、追求・解決に向けた意欲を引き出すことができる。

○　論理的な文章を書いたり、筋道を通して話したりする手がかりとなる言語モデル（型・手本）を提示することで、基本的な知識・技能を身に付けさせることができる。

○　考えや意見の交流、作品の読み合い等を通して、理由や根拠の重要性に気づかせながら、相互に考えを共有し合うことができる。

○　付箋やワークシートを効果的に使用して、個々の考えを見取り、適切な支援に生かすことで学びの深化につなげることができる。

○　国語科としての知識や技能を定着させることで、他教科での学習や様々な活動での言語活動に役立てることができる。

算数・数学部会
～よい授業の実践～

1　ねらい

算数・数学科では、児童生徒の学力向上のためには「授業で勝負できる教師の育成」が必要であると考えます。そのためには、よい授業の実践を積み重ねていくことが不可欠です。よい授業とは、【①子どもの見取り】、【②子どもの話や意見を生かす】、【③個人差を生かす】、【④子ども同士の学び合い】、【⑤子どもが「できた」と実感できる】というポイントをおさえた教師のコーディネート力が大切であると考えました。

2　内容

【①子どもの見取り】

○　授業の前に・・実態把握（レディネス、既習事項の確認、関心・意欲等）

○　授業中・・学習課題をとらえているか、解決の見通しを持っているか（例：「中２式の計算」）、つまずきは何か。

【②子どもの意見や考えを生かす】

○　子どものつぶやきや考えを聴き、全体に広げる(返す)。(例：小５「小数のかけ算」)

【③個人差を生かす】

○　子どもの特性をとらえ、学習活動の中で発揮させる。

【④子ども同士の学び合い】

○　わかったことや疑問等を伝える。

○　友達の考えをしっかり聞き、その思いをくみ取る。（例：小２「かけ算」）

○　自分と他の考えの相違点を明らかにする。

○　よりよいものを見いだす。

○　子どもの考えを価値付ける。（板書）

【⑤子どもが「できた」と実感できる】

○　課題解決の方法がわかった。

○　自分の力で解けた。

○　友達の考えを参考にして解けた。

○　学んだことを伝えることができた。

3　活用と内容

「自分の考えを持たせるために」「話し合いを充実させるために」等、授業をコーディネートするためのヒントとしてご活用ください。

社　会　部　会
～意欲的に追究する子どもを育むために～

1　ねらい

調査研究を進めるにあたり、「社会科におけるよい授業」の視点を明確にするためにできるだけ多くの授業を参観し、視点の洗い出しをすることからはじめました。「よい授業」のポイントを理解することで、指導力向上（普段の授業）に生かすことができると考えました。

2　内容

○　「よい授業」の共通点

①　児童生徒が主体的に活動（追究・探求）できる。

②　教師が児童生徒の思考過程をよりよく整理しコーディネートする。

③　具体物の提示や ICT の活用により、児童生徒の興味・関心を持続させる。

3　活用と効果

（１）　小学校の「『教師力 up』の素」

①　既習事項を児童に発表させることで本時の課題設定を行い、追究意欲を高めている。また、児童に応じて課題追究できるよう資料を複数準備している。

②　児童の意見交流の場を設定し、教師が修正を加えながら課題追究やまとめにつなげている。

③　ICT の活用により、人物の肖像画や文献資料を提示することでわかりやすい授業につなげられている。また、地域素材を生かした授業が展開されている。

（２）　中学校の「『教師力 up』の素」

①　導入の段階で実物を資料提示し、実際に使用することで、生徒の興味・関心を高める工夫がなされている。

②　課題追究の場面で、小グループで予想を発表し合い、課題追究の視点を設けている。また、予習課題に積極的に取り組ませていることで、探求心が持続できている。

③　まとめの段階で、一人ひとりが課題解決に迫れるよう、生徒の意見発表を生かしながら、修正や補足を意図的に行っている。

理　科　部　会

～問題解決の力・科学的に探究する力を育てる～

1　ねらい

児童生徒に問題解決の力・科学的に探究する力を育てるためには、問題解決型の流れに沿って理科の授業を進めていくことがポイントであるととらえました。さらに主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、授業の様子を『授業スタンダード』の各段階に関連させ、教師の働きかけや子どもの姿をとりあげました。

2　内容

市内の先生方に次の授業を提供いただき、その様子を録画し活用させていただきました。

小３『昆虫を調べよう』
小３『明かりをつけよう』
小４『物の体積と温度』
小５『魚のたんじょう』
小５『物のとけ方』
小５『物のとけ方』
小６『電気と私たちのくらし』
中１『水溶液の性質』
中１『力の世界』
中３『エネルギーと仕事』
中３『宇宙の広がり』

3　活用と効果

問題解決の過程に沿って理科の授業を進める際、育成する問題解決の能力（問題を解決する力、根拠のある予想や仮設を発想する力、解決の方法を発想する力、より妥当な考えをつくりだす力）があります。それらの力を育む具体例として、先生方がどのような働きかけをしているか、動画で見ることができます。

また、主体的な学びのために『教材との出会い』をどのように演出していくか、自分の考えを広げ深めさせるための『ペアやグループ、学級での話し合い』をどのように行っていくのかなど、見ることができます。

他にも主体的・対話的な学びを通して問題解決の力・科学的に探究する力を育てる様々な工夫や、児童生徒の様子を紹介しています。ぜひご活用ください。

英　語　部　会

～英語教育推進リーダーの実践から～

1　ねらい

2012年度から、中学校の次期学習指導要領が完全実施となり、英語科では、現行の学習指導要領の目標である「コミュニケーション能力の基礎を養う」から一歩進んで、「身近な事柄を中心に、コミュニケーションを図ることができる能力を養う」ことが求められます。

この新たな英語教育に対応するために、2014年度から文科省が行っている「英語教育推進リーダー養成研修」に、本市を代表して参加したお二人の授業実践を紹介します。

2　内容

○　「３年　Daily Scene4　道案内」
ねらい：乗り換えのある乗り物での行き方を尋ねたり教えたりすることができる

○　「１年　Unit6　オーストラリアの兄」
ねらい：人について尋ねることができる

3　活用と効果

二人の授業には、次期学習指導要領で新たな英語教育の要として掲げられている「英語で行う英語の授業」「内容に踏み込んだ言語活動」を成立させるためのヒントがたくさん詰まっています。

○　All English の授業で、下位の生徒は理解できるの？
○　生徒たちを飽きさせず、短時間でテンポよく行うことができ、基礎基本の定着にもつながるような帯活動は…？
○　生徒を主体的に言語活動に巻き込むため、どんな指示やフィードバックが効果的…？

このような疑問をお持ちの先生はいませんか？動画では、教師が生徒とインタラクションを図りながら各言語活動を展開する様子や、生徒のつまずきや間違いにどのタイミングで、どのような手立てを講じているか等、指導案だけでは伝わらない、日々の授業改善に生かせるアイディアが満載です。ぜひ、ご活用ください。

生徒指導部会
～学級開き～

1　ねらい

現代社会において、グローバル化・ＡＩ化が急速に進展する中、生徒指導に求められる役割は、学校の教育目標を達成するための重要な機能の一つであり、大きな役割を担っています。本部会では、学級経営に着目し、特に子どもたちとの出会いの場である学級開きについて研修を進めてきました。また、本研究を進めるにあたり、たくさんの先生方に調査のご協力をいただき、本部会のホームページを開設するに至りました。学級開きに向けた具体的な指導例を提案します。

2　内容

（1）「学級開きのためのプランニングシート」の作成の視点

○　担任する学級をどのように作りたいのか（学級経営方針を立案）

○　どんな子どもを育てたいのか。（理想とする児童生徒像の構想）

○　子どもにどのように伝えるのか。（具体的資料の準備）

（2）　「安心してスタートをきれる学級開き実践例の作成」の内容

○　実践の種類（あいさつや言葉かけ、約束事・ルールきめ等）

○　実践の概要と振り返り（目的やねらい、成果と課題等）

3　活用と効果

今回提案した「学級開きのためのプランニングシート」や「安心してスタートをきれる学級開き実践例」の資料は、総合教育センターのホームページに掲載されています。教職経験の少ない先生方には、ぜひ活用していただきたいと思っています。子どもとの出会いの場である学級開きを「黄金の一日」として迎えられるよう、児童生徒の実態に応じて活用ください。

特別支援部会
～「『教師力 up』の素」シートを活用して～

1　ねらい

授業を実践するにあたって、通常及び特別支援学級にはいろいろな実態の児童・生徒がいるなか、どのような授業がよいのか観点がはっきりしないことが多くあります。また、どう授業を組み立ててよいのか迷うこともあります。そこで、授業作り、授業の実践、評価などが分かるようにまとめました。

これを活用した具体的な指導事例のＤＶＤや「『教師力up』の素」シートを作成しました。

2　内容

（1）　いわき市「『教師力 up』の素」シート
～特別支援編～

（2）　事例の「『教師力 up』の素」

①　中学校　保健体育
「ドッヂビーを楽しもう」

②　小学校　生活単元学習
「とろとろえのぐであそぼう」

③　中学校　生活単元学習
「小物入れを作り、おうちの方にプレゼントしよう」

④　小学校　算数
「１億より大きい数を調べよう」

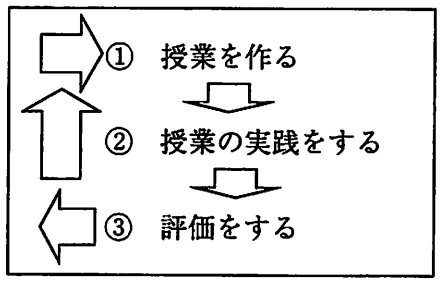
3　活用と効果

ＤＶＤ、事例の「『教師力up』の素」を活用する。

⇩

いわき市「『教師力 up』の素」シート
～特別支援編～

⇩



◎ 常日頃の授業に生かしてください。

～ 研 修 で 学 ん だ こ と か ら ～

いわき市総合教育センターでは、地域に根ざした研修、日常の教育実践に直結した研修及び本市における教育課題解決に資する研修を行っています。

研修で学んだことが、先生方の実践や子どもたちの姿に現れることを目標としています。各先生方が、今年度の研修でどのようなことを学び、実践に生かしているのかをいくつかご紹介します。

『経験者研修Ⅱ』を受講して

鹿島小学校　加藤　英子先生

私は今回の経験者研修Ⅱを機に、教員としてのレベルアップが図れるよう、自分が教師としてこれから何をすべきか考えながら研修に取り組みたいと考えました。

校外研修においては、教科指導研修、生徒指導研修、専門研修、社会体験研修等の幅広い研修の機会を与えていただき、新たな学びや気づきを得ることができました。また、校内研修では、市小教研の理科授業公開協力校としての学校全体の取り組みと合わせ、理科の授業力の向上に向け、深まりのある研修を行うことができました。当日も授業者として、無事発表を終えることができ、自分にとっての大きな自信となりました。

私の考える理想の教師像は、子どもたちが自ら学ぼうとするきっかけを作れる教師です。今年度の様々な研修を通して、「やってみたい」「どうしてだろう」と思える課題提示はどうあればよいか、そして、「もっと、○○したらどうなるんだろう」と、児童の対話の中から学びが深まる学習にするにはどうすればよいかを常に意識しながら授業づくりに取り組むことができました。

経験者研修Ⅱでは、同期の仲間たちとともに学んだり、意見を交流したりしたことで、「やっぱり授業はおもしろい」と改めて感じることができました。今後も、子どもたちに「学ぶことの楽しさ」を伝えることのできる教師を目指して、誇りと責任をもって教壇に立ちたいと思います。

『道徳教育実践講座』を受講して

植田東中学校　島田　荘先生

経験者研修Ⅱの計画を立てるにあたり、道徳の実践について学びたいと思っていました。これまで、自分が実践する道徳の授業は、いつも題材の内容を中心に扱いがちで、価値を深めることができていなかったように思います。そこで今回、自身の道徳の授業を見直し、指導力を向上させていきたいと思い、道徳教育実践講座を受講させていただきました。

授業前に教室へ入るとすぐ、学級の雰囲気が親和的に感じられました。そして、授業中には、誰が発言しても皆が受容的で、それぞれが認め合える学級であると感じました。道徳を実践するにあたり、学級経営の在り方が土台になくてはならないと改めて見直す機会となりました。

【実践講座の様子】

授業で参考になったのは、学習環境づくりでした。机のない椅子に座った状態で、黒板を囲む形は、話合いに入りやすい工夫であると感じました。また、小集団での話合いは一人ひとりの話をする時間も確保でき、全体で展開するよりも話を深めることができると感じました。さらに、キーワードを用いながら、価値からぶれずに議論する方法は、大変勉強になりました。

講座を受講して、何よりも大切なものは、やはり学級経営であると実感しました。生徒が自分らしさを発揮できる雰囲気づくりが大切です。それを意識することで、学級担任として、今まで以上に生徒の発言や意見に耳を傾け、生徒が主体となって問題を解決できるように生徒との関わりが変化してきました。今後は、小集団での話合いを用いることを積極的に行い、一人ひとりの考えが反映される道徳や授業を実践していきたいです。

教育支援室１年目のあゆみ

【教育支援室の取組】

教育支援室は今年度から、

①いじめ・不登校など困難な状況を抱える子どもたちへの支援

②障がいのある子ども一人ひとりの教育的ニーズを踏まえた支援

をより充実させるため、いわき市総合教育センター内に設置されました。業務内容として主に、

①教育相談に関すること

②不登校・引きこもりへの対応に関すること

③特別支援教育に関すること

について取り組んできました。

今年度の取組の中で、特に成果があったものについて紹介します。

１つ目は、発達検査依頼への対応です。依頼があったケースについて、今年度は、保護者の承諾を得られれば、その子が在籍している学級の授業の様子を検査者が指導主事と共に参観し、検査の結果からつまずきが想定される点について助言できるようにしました。これは、データを基に具体的に授業で配慮すべき点が分かって良かった、と学校からもとても好評でした。また、市委嘱スクールカウンセラーを増員し、学校へ訪問して児童生徒の直接観察をもとにした相談を積極的に行うなど、保護者や学校のニーズに沿った相談にも対応しています。

２つ目は、不登校対策での取組についてです。チャレンジホームに通う児童生徒に、カウンセラー等の協力を得て「コラージュ療法」や「音楽療法」を行ったところ、子どもたちの内面を知ることができました。加えて、普段言葉で表現することが苦手な子も、これらの活動を通して表現する楽しさを味わい、自信をもつことができました。

チャレンジ合同行事「音楽療法」

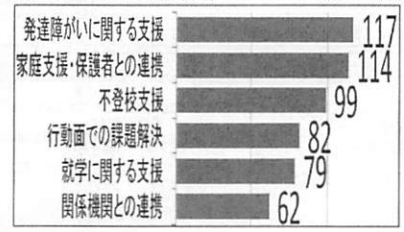
これらは、教育支援室が関係者をつなぎ、チームとして取り組めた成果だと考えます。

【２年目に向けて】

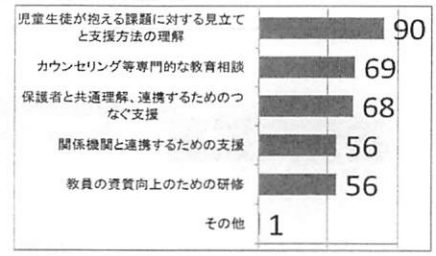
小中学校で実際に教育支援室をどのように認識し、どのように活用しているかなどについて把握するために、12月に調査を実施しました。その結果について、いくつか紹介します。

平成29年12月末までに教育支援室を活用した小中学校の割合は、77％となりました。

「活用した内容」については、３つの業務の結果を合わせると、**「発達障がいに関すること」**（のべ117校）、**「家庭支援、保護者との連携に関すること」**（のべ114校）、**「不登校に関すること」**（のべ99校）が上位を占めました。また、**「活用による効果」**について上位を占めたものは、**「児童生徒理解」**（68校）、**「保護者との共通理解」**（65校）、**「教育的ニーズに沿った支援方法」**（56校）となりました。これらのことから、教育支援室の開設の目的に沿った活用が多かったことが分かりました。



一方で、今後、教育支援室を**「活用したいこと」**として多かったものが、**「児童生徒が抱える課題に対する見立てと支援方法について」**（90校）、**「カウンセリング等専門的な教育相談」**（69校）と続き、個に応じた適切な支援方法の理解に関する要望が多いことが明らかとなりました。



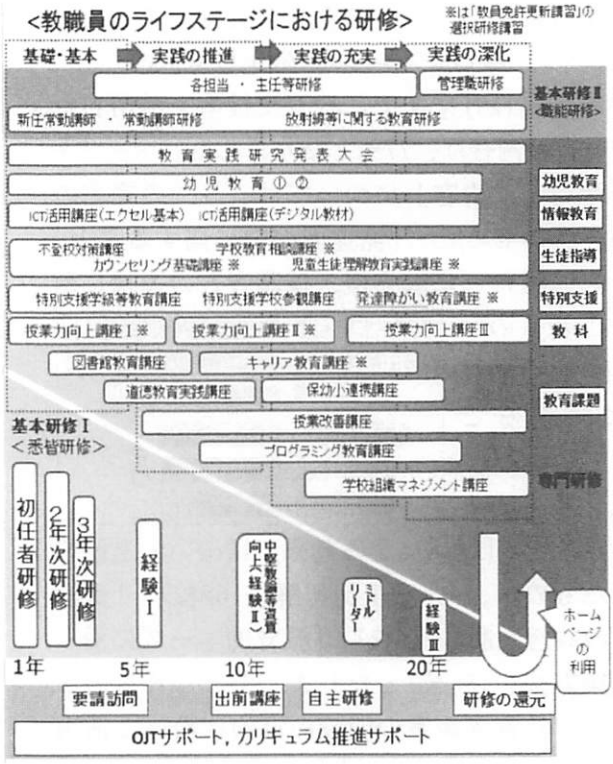
年間相談件数は、近年では1,500件程度に増加しており、１件ずつ「つないでいく」支援には限界があります。そこで、校内研修を通して、１つの事例をもとに学校全体で共有化して広げ、深めていく機会をつくることが、教育支援室の重要な支援の１つとなってきています。

支援が必要な子どもたちのために、学校や家庭のニーズに沿ったきめ細かな支援に努めますので、今後ともぜひご活用ください。

ひろば

次年度の研修調査室の取組

平成30年度の研修では、次期学習指導要領の趣旨を踏まえ、主体的・対話的で深い学びの授業改善に向けての研修やプログラミング教育など課題に対応する研修の充実を図るとともに、教職員のライフステージに応じたキャリアアップが図れるよう研修の構成を工夫していきます。

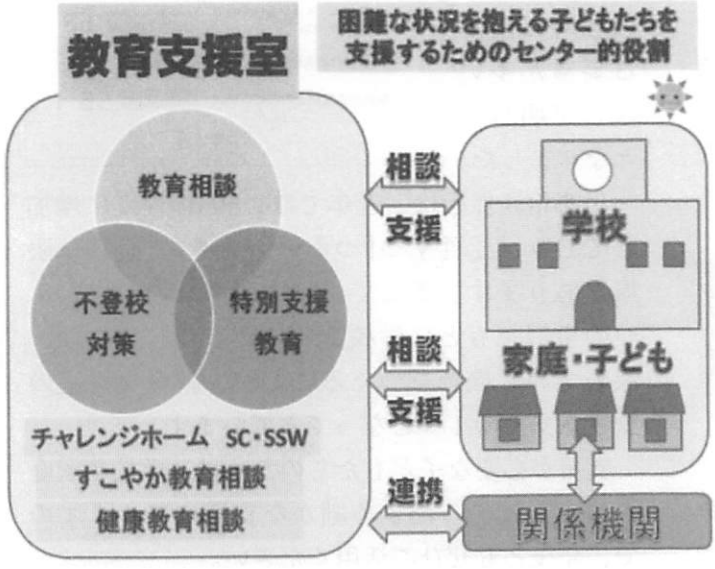


また、平成30年度は、左の図で示したように（平成30年度いわき市教職員研修計画ｐ．１参照）、教職員のライフステージを「基礎・基本期」（概ね１～５年目）、「実践の推進期」（概ね６～10年目）、「実践の充実期」（概ね11年目～）、そして熟練した教員の「実践の深化期」の４ステージとし、研修構想を練りました。管理職の先生方には、計画的な人材育成の観点から、教職員は、それぞれのステージにおいて望まれる教職員の姿を意識したキャリアアップを自己マネジメントする観点から、当センターの研修を活用いただきたいと思います。

基本研修Ⅰにおいては、教育公務員特例法第24条の規定に基づき、中堅教諭等資質向上研修として、経験者研修Ⅱ（11年目）を位置づけます。なお、研修においては、教育活動やその他の学校運営の円滑かつ効果的な実施において、中核的な役割を果たし、職務を遂行する上で必要とされる資質の向上を図ることができるよう、内容の充実を図っていきます。

次年度の教育支援室の取組

困難な状況を抱える子どもたちを支援するために



- ○　学校の取組を支援するための教育条件等の整備
- ○　支援を必要とする児童・生徒一人ひとりに応じた配慮すべき点について助言する
- ○　組織的な教育相談体制を生かし、学校や子どもたちを支援するとともに、学校と連携しながら必要に応じて関係機関へつなぐ
- ○　自己肯定感の低い不登校児童・生徒へ自信や達成感をもたせる
- ○　不登校の実態と課題を把握し、不登校児童・生徒やその保護者の不安や悩みに対処する